

保育実習のDX化： web アプリによる実習日誌作成支援システムの構築

門傳 みこ* 中桐 齊之* 向坂 幸雄**

兵庫県立大学環境人間学部* 中村学園大学短期大学部幼児保育学科**

1. はじめに

近年、様々な分野でDXが推進されており、学校教育においてもICT化が急速に進行している。一方、幼児期の教育を担う保育の世界では、今まさにその進行が始まりだしたところである。従事人材層の特性や、子どもの発達段階の違いから、小学校以上の教育活動に比べると保育の現場へのICTの導入はなかなか進んでこなかった。

昨今の人手不足とそれを補う業務の効率化を背景に、ようやく一部の現場でICTの導入が進みだしたところであるが、全ての現場の理解を得た統一的な指導体制が求められる保育者養成教育の分野では、学生の保育現場での実習日誌や指導案の執筆も手書きが基本であり、執筆・書き直しのために要する時間や労力等、ただでさえ大変な現場での実習期間中の日々の課題として学生の負担は大きい(請川, 糸原, 吉岡, 加藤, 日下部, 根津, 2023)。こうした負担が本来の保育の知識・技能の習得以前にドロップアウトしてしまう学生を生み出すことに繋がっており、そのことが業界の人材不足に拍車をかけている要素もあることから業界として改善を目指すことは社会的意義も大きい。保育者養成校の中には日誌のページ数を削減し、学生の負担感を減らす動きもみられるが、実習日誌の執筆は保育者

を目指す学生にとって、保育者の働く様子や子どもの行動を観察した内容を記録し、指導者と共にその受け止めを確認し、振り返る上で必要不可欠なものであり、単純に日誌の量を減らすことは養成教育の質の低下にもつながることから、質を維持した効率的な日誌の執筆環境の構築が求められる。

2. 保育実習とは

厚生労働省は保育実習の目的を「その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。」と定めている(保育実習実施基準)。その期間中の経験を記録する実習日誌は、保育士を目指す学生にとって保育者の働く様子や子どもの行動を観察した学びの記録や振り返り、指導者との共有のうえで必要不可欠なものとなる。

3. 目的・方法

本研究の目的は、保育実習指導のDX化を実習日誌の電子化により実現し、学生指導の質を向上させるとともに、学生の本来の学びを中心とした実習実施への寄与が効果的かを検証することである。

本研究では、ICTを活用することで、本質的でない実習生の負担を軽減し、遠隔地の学外で行われる実習期間中の大学の指導担当教員によるリアルタイムの指導も円滑に行える手段を構築できるのではないかと考え、webサイト上で実習日誌を作成し、提出・フィードバックできる環境を構築する。実習日誌作成ページには時

DX of Childcare training -Building a training diary support system using a web app-

Miko Monden, Nariyuki Nakagiri, Yukio Sakisaka

*School of Human Science and Environment, University of Hyogo

**Early Childhood Care and Education, Nakamura Gakuen University Junior College

